

Journal of Chubu University Education

No.18

2018

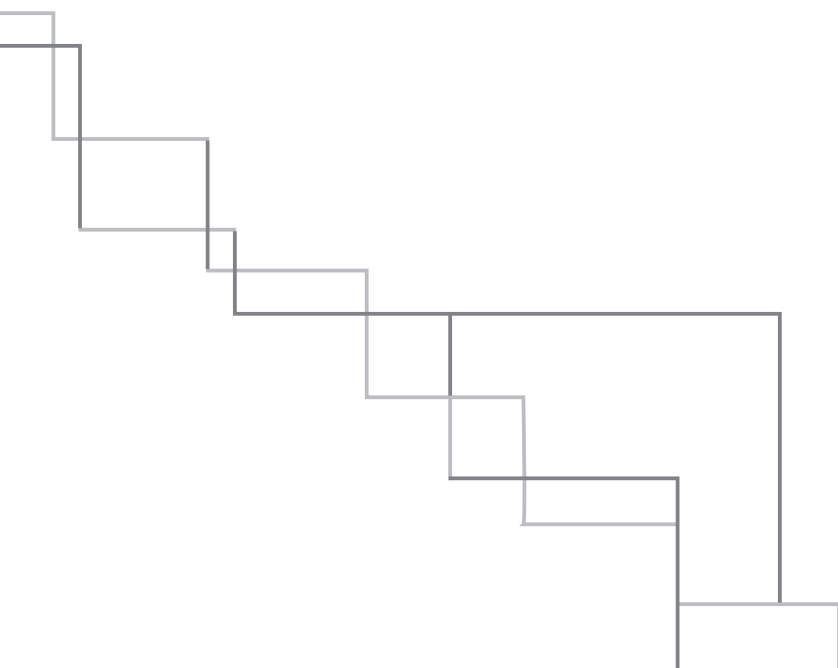
【実践研究・実践報告】

Quizlet を活用したスピーキング・リスニング指導 大門正幸

【Practical Reports】

Speaking and Listening Instructions Utilizing Quizlet

..... OHKADO Masayuki



Quizletを活用したスピーキング・リスニング指導

大 門 正 幸*

要 旨

外国語学習の理想的な目標のひとつは、思考と表現の直接的な結合を確立し、母語を介在させることなしに当該の外国語で意思の疎通を図ることができるようになることである。しかし、この目標は容易に達成できるものではなく、特に日本語話者が英語を学習する、あるいはその逆の場合のように、母語と学習対象言語の言語的距離が遠い場合、その困難さは大きくなる。日本語と英語の場合に特に問題となる特性のひとつは両者の語順が鏡像関係にあることであり、この問題を克服するために様々な学習法が考案され活用されてきた。本稿の目的は、日本語話者を対象とした英語授業での実践の報告を通して、ウェブベースの学習アプリのひとつであるQuizletが、伝統的に用いられていた学習法を実行する際に大きな手助けとなることを示すことである。

キーワード

英語教育、スピーキング指導、リスニング指導、Quizlet

1 はじめに

第二言語習得研究においては、一般に、習得された言語の流暢さを決定する重要な要因は情報処理の無意識化の度合いであると考えられている (Lennon, 1990)。この情報処理の自動化は、母語と第二言語間の構造的相違が大きいほど困難になるが、構造的に鏡像関係にある英語と日本語では特にそうであり (Smith, 1978)、他の言語話者、特に英語と構造的に近い言語を母語とする言語話者と比べて、日本人にとって英語の習得が困難なのはいわば当然であると言えよう¹⁾。このため、英語を英語のまま理解する速聴速解や速読速解に至るには日本語の語順にとらわれない学習法が必要となる。中でも伝統的に行われ、その有効性が示されてきたのは、同時通訳者の基礎訓練法として長年実践されてきたShadowingやSlash Readingであるが (Hamada, 2011a; 2011b)、このような伝統的な学習を実行に移す際のツールとして、授業での実践を通してQuizletが大変有効であることを実感したので、本稿で報告したい。Quizletはいわゆる4技能いずれの学習においても有効であるが、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング、本稿では特にスピーキングとリーディングの基礎練習に焦点を当てることにする。

2 Quizletとは

Quizletは、アメリカの高校生アンドリュー・サザーランドが自分用に作成した、フランス語のボキャブラリーテスト用の学習ツールに基づいている。その基本的な機能はペアになった用語を学習するためのバーチャルな「単語カード」で、図1に示すように、画面をクリックすることで仮想的にカードをめくることが可能である。



図1 Quizletの基本機能

* 人間力創成総合教育センター 語学教育プログラム（英語Ⅰ） 教授

この基本機能の他に、図2に示すような、ゲームを含む様々な機能があり、楽しみながらの学習が可能のように工夫されている。



図2 Quizletの機能一覧

また、図3に示すように、基本的なカード学習機能に関しても様々なオプションが用意されている。



図3 「単語カード」機能のオプション

「回答する」の部分では、最初に表示されるカードを選択することができる。「英語」を選んだ場合、デフォルトで日本語が表示され、学習者はその日本語に対応する英語を学習することになる。逆に「日本語」を選んだ場合にはデフォルトで英語が表示され、それに対応する日本語を学習する。「両方」を選んだ場合、画面の上部に「英語」が、下部に「日本語」が表示される。

本稿のテーマと深く関わるのは「高度なオプション」として用意されている「音声読み上げ」に関する機能である。本稿執筆時の2018年8月の時点で、PCのブラウザ版は15の言語に、iOS版とAndroid版は17の言語に対応しており、これらの言語で読み上げを行うことができる。しかも、その音声は非常に自然で、言語学習のモデルとして利用するのに十分な質の高さである。「高度な音声オプション」では音声の「オン」「オフ」の切り替えと、読み上げ速度の「ノーマル」と「スロー」の切り替えをすることができる（ただし、後者の機能はブラウザ版のみ）。2種類の速度のいずれかを選択することで利用者のレベルに応じた学習を行うことができる。

3 Quizletを使った速聴即解・速読即解のための教材

元々Quizletが想定している利用法は外国語の単語や熟語、または学術専門用語など語彙ベースの学習であるが、いわゆる4技能学習の基礎訓練に使える教材を簡単に開発できる、非常に優れた教材開発環境であることに気づき、2017（平成29）年度の特別研究費（CP）の助成を受けて一年次の「英語スキルⅠ/Ⅱ」で使用している教科書に基づく教材を開発した²⁾。本報告で使用した教材はその教材に微調整を加えたもの、および2年次の「英語スキルⅢ/Ⅳ」で使用している教科書を元に報告者が開発したものである³⁾。教材の冒頭部分を、図4-1から図4-3に示す。



図4-1 開発教材（その1）



図4-2 開発教材（その2）



図 4-3 開発教材（その 3）

画面の「▶」マークをクリックする（あるいはキーボードの矢印キーを押す）とカードの表面が連続して表示されるため、図 4-1～図 4-3 のように英語を表に表示した状態でこの作業を行えば、英文のみが連続して表示／読み上げされることになる。逆に、日本語を表に表示した状態で行えば、和文のみが連続して表示／読み上げされることになる。

この教材の使い方として、少なくとも表 1 に示した 12通りが考えられる。「見る」は音声を流す場合と流さない場合の両方があり、それぞれを別に数えると、この部分だけで 12通り、「見ない」の 6通りと合わせると 18通りの使い方が考えられる。

表 1 教材の使い方

文字を	見ない		見る	
	英語	日本語	英語	日本語
学習法	①繰り返し	⑤英語に(口)	⑦繰り返し(口)	⑪英語に(口)
	②書き取り	⑥英語に(書)	⑧繰り返し(書)	⑫英語に(書)
	③日本語に(口)		⑨日本語に(口)	
	④日本語に(書)		⑩日本語に(書)	

「表示」：最初に表示される言語

「(口)」：口頭による作業

「(書)」：筆記

①はチャンク単位のリピーティング、またはシャドーイングである。⑦は同じ作業を文字を見ながら行うもの。②はディクテーションである。⑧は文字を見ながらの書き取りで、スペリング定着のための一手段として使うことができる。③、④、⑨、⑩は日本語を通した内容確認の作業であり、英語を英語として理解できるようになれば不要となるものである。⑤、⑥、⑪、⑫は、チャンク（話す際に息継ぎで分けられるような意味のまとまり）単位の和文英訳であり、英語による

発信の基礎訓練となるものである。それぞれのやり方が 4 技能のどれに焦点を当てたものであるかを示したのが表 2 である。ただし、⑦～⑫については、読み上げ機能を用いない場合のみを挙げてある。

表 2 それぞれの学習法が置く重点

学習法	リスニング	スピーキング	リーディング	ライティング
①	○	○		
②	○	○		○
③	○			
④	○			
⑤		○		
⑥				○
⑦		○	○	
⑧			○	
⑨			○	
⑩			○	
⑪		○		
⑫				○

4 リーディングと音声学習の重要性

本稿で報告する授業実践の対象クラスである「英語スキルⅠ/Ⅱ」「英語スキルⅢ/Ⅳ」の主要な目標は「リーディング・ストラテジーを使って読解ができるようになること」である。音声に重点を置いた指導はこの目標にそぐわないように思われるかも知れないので、この点について触れておく。

読解研究によってもたらされた重要な成果の一つとして、読解には、たとえそれが黙読であっても、音韻処理が介在する、という知見がある（Rieben & Perfetti, 1991）。逆に言えば、文字を見て音韻化がスムーズにできないと読解に問題が生じる、ということである^{4), 5)}。したがって、読解力向上のためには、音声学習を欠かすことはできない。また、当然のことながら、文字を正確に音声化できるためには、その音声が聴き取れ、再生できる（発音できる）ことが前提となる。

受講生にこの点を理解してもらうために、授業では最初の時間に図 5 を含むスライドを用いて読解のメカニズムに関する解説を行なっている。

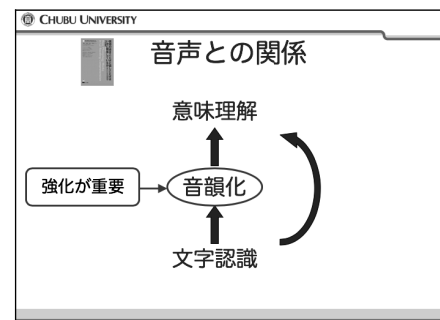


図 5 読解に関する解説スライドの一部

5 課題と指導

授業では、受講生を指名し「Quizletの英語音声で文字なしで聴かせ、カード毎にリピートする」という作業を行わせ、それを評価の一部にしている。図4で示した英文を例にあげれば、"Online games" という Quizlet の音声の流れたら、受講生はそれを繰り返す。続いて、"are extremely popular" という音声の流れたら、それを繰り返す。"these days" という音声の流れたら、それを繰り返す。ということになる。授業内のこの課題のために、受講生には授業外で Quizlet を使いリピーティングやシャドーイングの練習(表1の①)をしていくよう強く指導する。図6-1、図6-2はこの時の指導に用いるスライドの一部である。

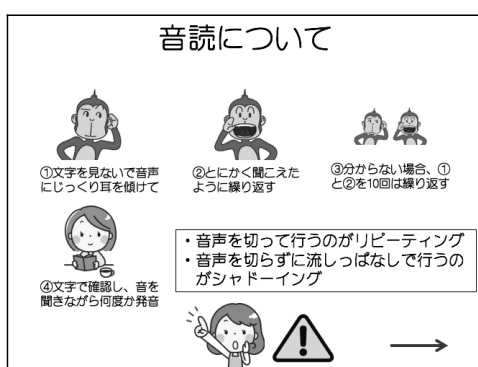


図6-1 音声指導に用いるスライドの一部(その1)

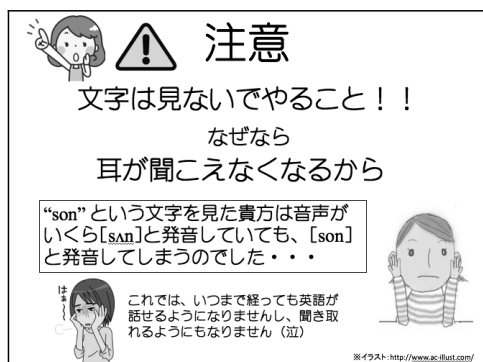


図6-2 音声指導に用いるスライドの一部(その2)

重要なのは練習の際に「文字を見ない」ということであるが、この点を son や war、none of us のような、文字に影響されて発音を間違いがちな語を実際に発音させて強く認識させるようにしている。

なお、この課題を行うのに最適の環境は、指名された受講生の発音をヘッドホンを通して「間近で」聴くことのできるCALL教室であるが、そのような対応のできない通常の教室では、担当者にマイクを渡し、受講生全員に音声聞き取れるように配慮している。

授業内では、時間や受講生の反応によって、表1の⑫以外の作業を行っているが、①や⑦の作業をした直

後に⑤や⑪の作業をさせると思いの外、英文が口をついて出てきて「短時間での効果」を実感できる受講生が多く、授業外で Quizlet を用いる動機付けとして効果的であるように思う。

6 受講生の反応

最後の授業で、google フォーム を使って、表3に示した12の設問からなる、Quizletに関する無記名のアンケートを実施した。4技能のうちの「ライティング」については授業内で関連の作業(表1の②、⑥、⑫)を行わなかった(あるいは、ほとんど行わなかった)ので、質問には入れていない。

表3 アンケート項目

番号	設問
Q1	Quizlet による学習を、楽しみながら行うことができましたか?
Q2	Quizlet を使って学習する際、文字を見ないで発音することを実践しましたか?
Q3	Quizlet は、英語を話す力を向上させるのに役立つと思いますか?
Q4	Quizlet は、英語を聴く力を向上させるのに役立つと思いますか?
Q5	Quizlet は、英語を読む力を向上させるのに役立つと思いますか?
Q6	1週間あたり、何回くらい Quizlet を活用しましたか? おおよその回数を数字で記入してください。
Q7	1週間あたり、どれくらいの時間、Quizlet を活用しましたか? おおよその時間を数字(単位は「分」)で記入してください。
Q8	何を媒体として Quizlet を活用しましたか?
Q9	いつ Quizlet を活用しましたか?(複数選択可)
Q10	どこで Quizlet を活用しましたか?(複数選択可)
Q11	Quizlet の良かった点を、できるだけ具体的に記入してください。
Q12	Quizlet に改善を希望する点(困ったこと、追加してほしい機能など)をできるだけ具体的に記入してください。

Q1～Q5では、「とてもそう思う」「そう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「そう思わない」を、それぞれ、「5」「4」「3」「2」「1」の5段階で回答してもらった。Q8は、「スマートフォン」「パソコン」「タブレット」「その他」の中から、Q9は、「通学時間」「授業前」「休み時間、空きコマ」「学校外で時間のある時」「寝る前」「その他」の中から、Q10は、「電車の中」「バスの中」「自分の運転する車の中」「大学の教室」「大学のPC室」「自宅」「その他」の中から、複数選択可で選択してもらった。

6つのクラスの209名から回答を得たが、Q1～Q

7 については、レベルや学年によって回答に差があるので、「1 年次の上級クラス」「1 年次の中級クラス」「1 年次の初級クラス」「2 年次の中級クラス」「再履修クラス」に分けて結果を示す（表 4-1～表 4-5）。最初のグループは 2 クラス分、それ以外は全て 1 クラス分である。

表 4-1 Q1～Q7 への回答（1 年次上級）

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7
平均値	3.64	4.07	4.04	4.23	3.71	2.95	39.75
中央値	4	4	4	5	4	2	30
最頻値	4	5	5	5	4	2	30
標準偏差	1.09	1.18	1.05	.98	1.11	2.95	36.70
最小値	1	1	1	1	1	1	1
最大値	5	5	5	5	5	20	180

N = 73

表 4-2 Q1～Q7 への回答（1 年次中級）

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7
平均値	3.91	3.89	4.17	4.31	3.89	2.66	25.54
中央値	4	4	4	5	4	2	20
最頻値	4	5	4	4	4	2	20
標準偏差	.66	1.23	.89	.68	.90	2.20	22.58
最小値	3	1	2	3	2	0	1
最大値	5	5	5	5	5	10	100

N = 35

表 4-3 Q1～Q7 への回答（1 年次初級）

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7
平均値	3.38	3.17	3.88	4.21	3.88	1.96	28.96
中央値	3	3	4	5	4	1	10
最頻値	3	3	4	5	4	1	10
標準偏差	.92	1.27	.74	.78	.74	2.01	33.17
最小値	1	1	3	3	3	0	0
最大値	5	5	5	5	5	10	120

N = 24

表 4-4 Q1～Q7 への回答（2 年次中級）

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7
平均値	3.71	3.90	4.15	4.15	3.98	2.29	42.80
中央値	4	4	4	4	4	2	30
最頻値	4	5	5	5	4	2	30
標準偏差	1.08	1.09	.91	.96	1.01	1.12	36.64
最小値	1	1	1	1	1	0	0
最大値	5	5	5	5	5	6	180

N = 41

表 4-5 Q1～Q7 への回答（再履修）

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7
平均値	3.14	2.64	3.29	4.00	3.36	1.43	33.21
中央値	3	3	4	4	4	1	25
最頻値	3	2	3	5	5	1	20
標準偏差	1.03	1.28	1.27	1.24	1.55	.85	26.50
最小値	1	1	1	1	1	0	0
最大値	4	5	5	5	5	3	90

N = 14

各表の中央値、最頻値に注目すると、「1 年次の上級クラス」「1 年次の中級クラス」および「2 年次の中級クラス」では多くが楽しみながら（Q1）、文字を見ないでの学習を实践した（Q2）ことがわかる。自習の回数（Q6）および時間（Q7）については、いずれのグループについても個人差が大きい。今回の課題で重点を置いた音声学習についてであるが、「再履修」グループ以外ではいずれも大半が Quizlet が話す力（Q3）／聴く力（Q4）の向上に役立つと感じている。

「再履修」グループでは、話す力の向上（Q3）については最頻値が「3」であるが、聴く力の向上については「5」であり、有効性は認めているようである。また、読む力の向上（Q5）については、いずれのグループも Quizlet の有効性を感じている割合が高くなっている。

音声学習に関する Q3 と Q4 に対する回答結果を図 7-1～図 7-5、図 8-1～図 8-5 に円グラフで示す。

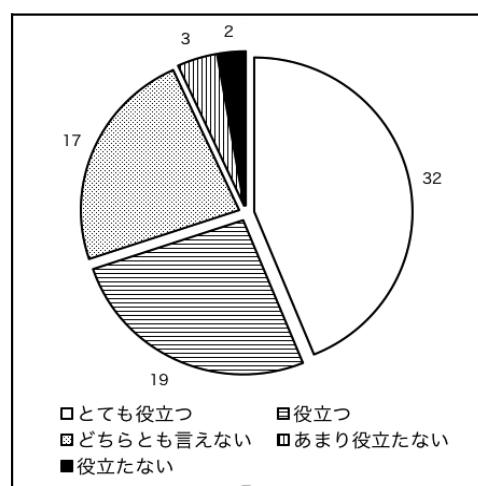


図 7-1 話す力の向上に役立つか？（1 年次上級）

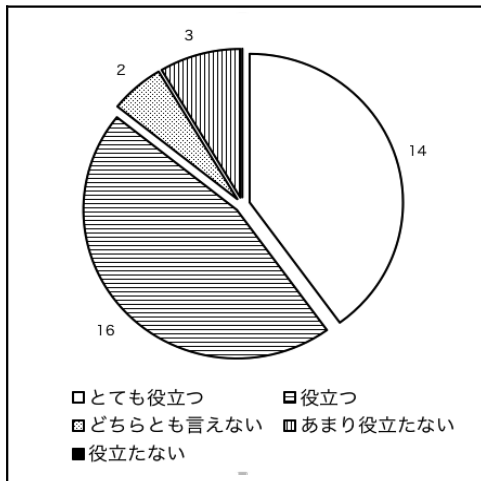


図 7-2 話す力の向上に役立つか? (1年次中級)

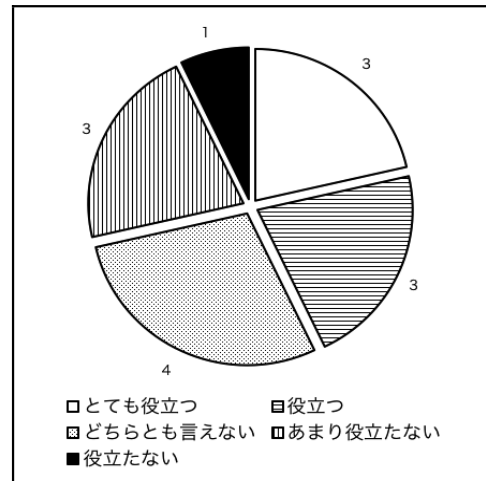


図 7-5 話す力の向上に役立つか? (再履修)

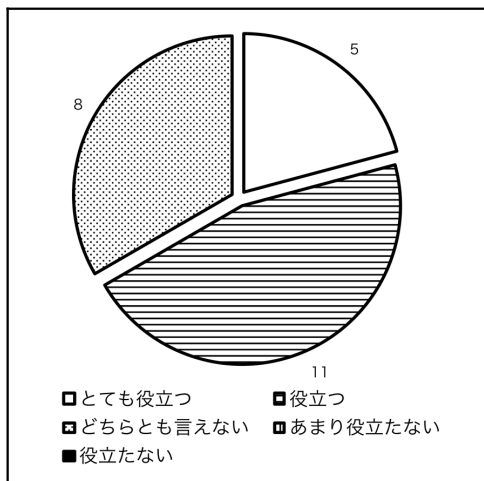


図 7-3 話す力の向上に役立つか? (1年次初級)

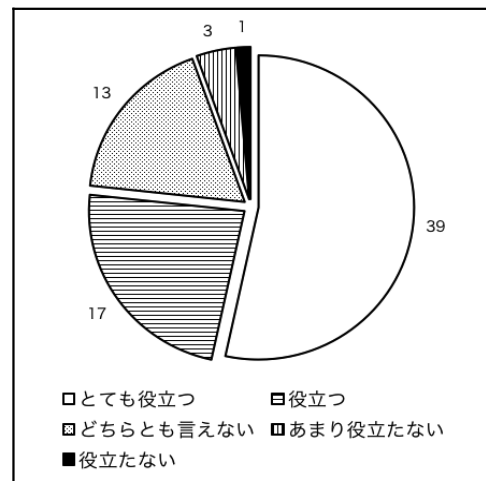


図 8-1 聴く力の向上に役立つか? (1年次上級)

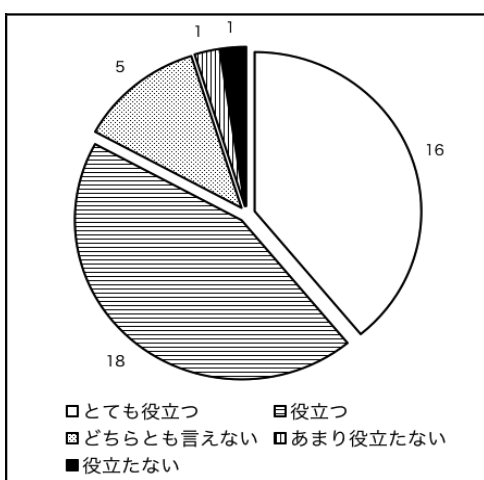


図 7-4 話す力の向上に役立つか? (2年次中級)

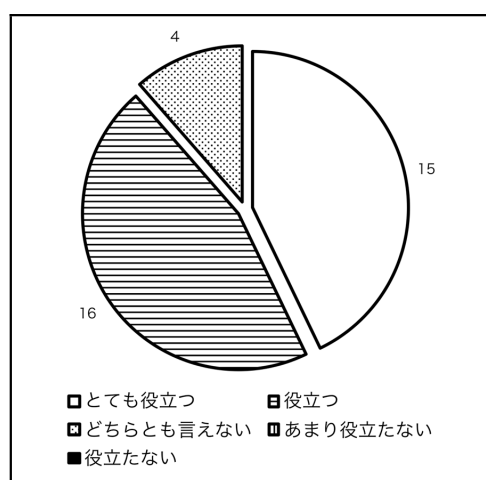


図 8-2 聴く力の向上に役立つか? (1年次中級)

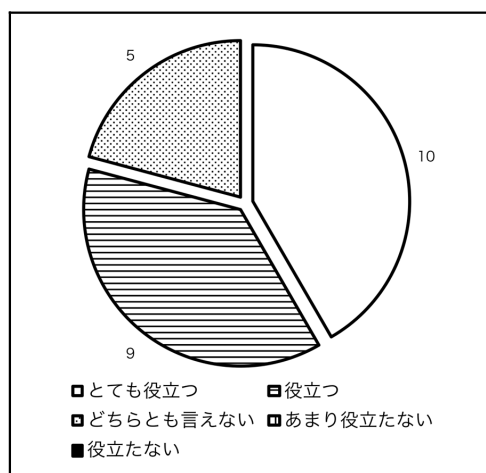


図 8-3 聴く力の向上に役立つか？（1年次初級）

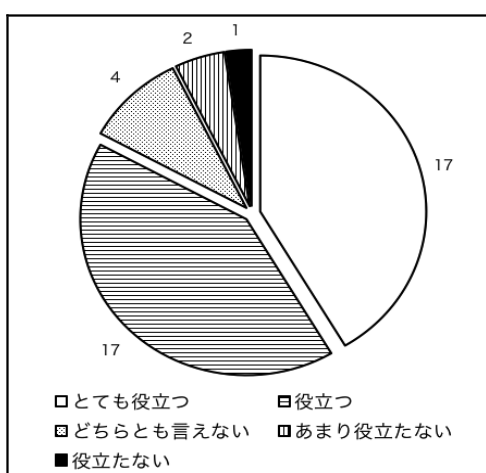


図 8-4 聴く力の向上に役立つか？（2年次中級）

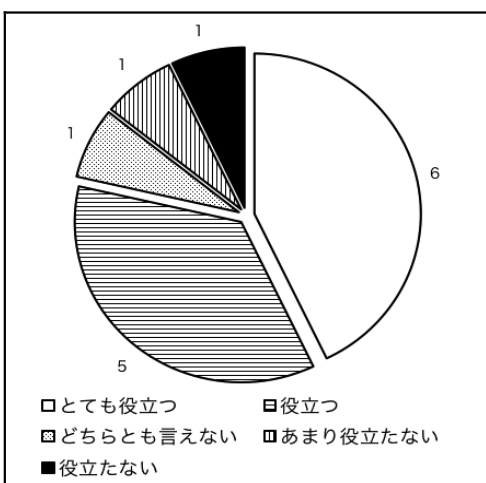


図 8-5 聴く力の向上に役立つか？（再履修）

「話す力の向上に役立つか」という設問に対して「再履修」グループの数値はやや少ないものの、それ以外については「とても役立つ」または「役立つ」と答えた受講生が非常に多いことが確認できる。

Quizletの活用に使った媒体（Q8）、活用した時間（Q9）、活用した場所（Q10）については、全てのグループをまとめた結果をそれぞれ図9、図10、図11に示す。

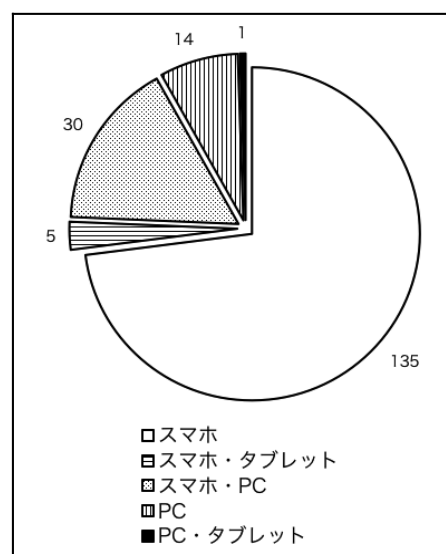


図 9 Quizletの活用に使った媒体

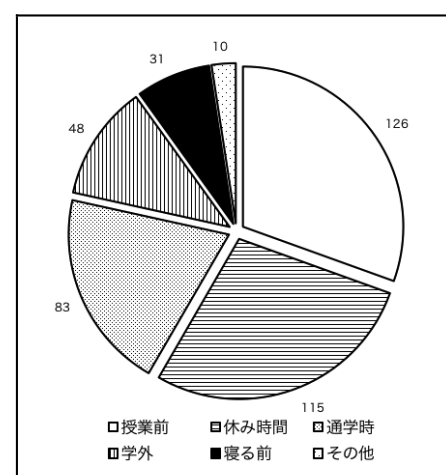


図10 Quizletを活用した時間

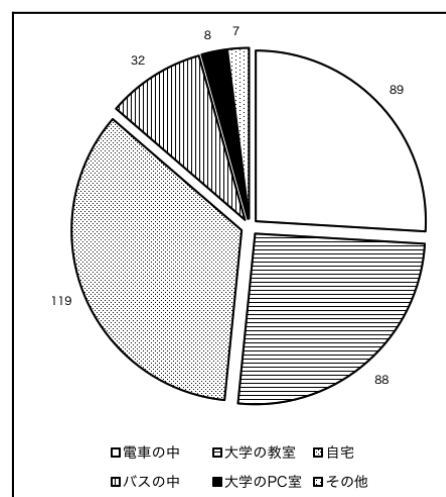


図11 Quizletを活用した場所

図9では複数回答の場合、組み合わせをそのまま集計して表示しているが、図10と図11では組み合わせがかなりの数になるため複数回答の場合、別々に集計している。たとえば、図10において「授業前、休み時間」という回答は「授業前」と「休み時間」に分けて集計してある。

図9から明らかなように、Quizletを使用する媒体としてはスマートフォン（スマホ）が圧倒的である。図10、図11からは、多くの受講生が空き時間や通学時間など、いわゆる隙間時間を効果的に利用している様子がうかがわれる。

最後に自由記述について簡単に見ておこう。「Quizletの良かった点」（Q11）に関する記述をまとめたのが、図12である⁶⁾。

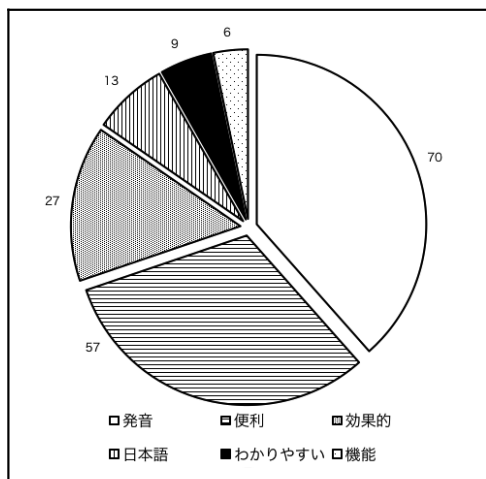


図12 Quizletの良かった点

「発音」は「発音が聴けること」、「リスニングの練習になる」「話す練習になる」など、音声に関する言及のあるもので、全体の4割ほど（70/182=38.5%）を占めた。「便利」は「使いやすい」といったアプリそのものの便利さに触れた意見と「どこでも使える」といった手軽さに関する意見の両方を含んでいる。「効果的」は、「発音がうまくなった」「よく覚えられた」など、学習効果を実感したという意見をまとめたものである。「日本語」はその場で日本語で意味が確認できるという趣旨の意見をまとめたものである。「機能」については、「ゲーム機能」をはじめとするQuizletの多彩な機能に触れた意見をまとめたものである。

次に「困った点」（Q12）について見てみよう。自由記述を内容によってまとめたのが図13である。

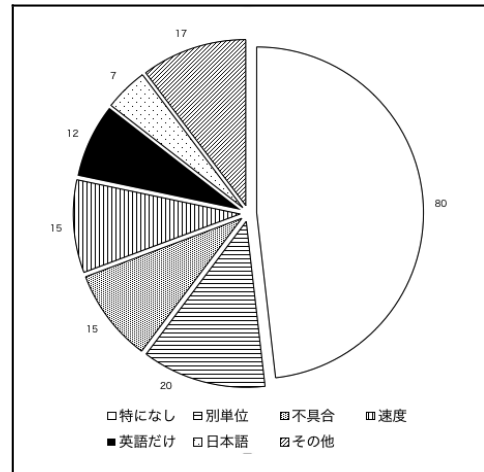


図13 Quizletの困った点・改善希望点

もっとも多かったのが「特になし」で多くの受講生がQuizletの機能に満足していたことが分かる。「別単位」は、チャンク単位以外の単位（たとえば、文、パラグラフ、章など）のカードが欲しいという要望、「不具合」はアプリ使用中になんらかの不具合があったという訴えである。ただし、スマホやPC、インターネット環境のようなアプリ以外の問題に関するものも含めてある。「速度」は「英語音声が目速すぎた」という訴えであるが、ブラウザを使えば速度が調整できるということが十分伝わっていなかったための意見だと思われる。「英語だけ」は「英語の音声だけを自動的に流せるようにしてほしい」という要望、「日本語」は文全体、章全体、といった大きな単位の日本語訳がほしいという要望である。前者については母語話者の音声（150wpm程度の通常速度と100wpm程度のゆっくりのもの）が準備されているし、後者についても全訳が用意されているので、Quizletに実装できれば便利だとは思うものの、既に対応済みであるとも言える。

結語

カセットテープが擦り切れるほど再生・巻き戻しを繰り返して外国語のスピーキング・リスニング学習を行ってきた筆者にとって、SONYのICリピータ機能付きカセットレコーダの登場は大きな朗報であった。それから30年ほどの時を経て手にしたQuizletはまさに夢のようなツールに思われる。その優れたツールの恩恵を一人でも多くの受講生に享受してもらいたいという思いで開発した教材であったが、多くの受講生が積極的に利用し、その効果を実感していることが確認できた点は大変嬉しく思う。

受講生には毎授業後にコメントを書いてもらっているが、表1の③や④の後に⑤、⑥を行ったり、⑨、⑩の後に⑪、⑫を行った回では「これを続ければ英語が

話せるようになる気がする」、「書けるようになる気がする」という声がいくつもあった。授業内でQuizletの有効性を実感した受講生が授業外でも表1の様々な学習法を積極的に実践し、4技能のすべての面での上達を実感してくれることを願っている。

謝辞

Quizlet教材の基本部分は、本文で触れたように、2017（平成29）年度の特別研究費（CP）の助成を受けて作成したものです。共同研究者の加藤由崇先生、和田珠実先生に厚くお礼申し上げます。

注

- 1) 同様に、英語話者にとって日本語の習得は困難であり、アメリカ外交官養成局が作成した習得困難な言語ランキングでは、88週、2,200時間の学習が必要な最も難しい言語の一つとして挙げられている。
- 2) 教材やその成果については、加藤他（2018）で報告されている。
- 3) 1年次の教科書はOhkado et al. (2013)。2年次の教科書はBennett (2011) である。
- 4) 終戦直後に英語の必要性が問題になった時、読書力を身につけさえすればいい、という目的論に対して石橋（1946）は、言語の本質論から音声をまず大事にすることが重要だと訴えた。寺沢（2014）の言う「言語／語学の本質」論に分類される言説のひとつであるが、その後の知見を先取りした優れた見解であったと言えるであろう。もちろん熟達した読者が音韻処理を介在せずに読解を進める場合はあるが、本稿で考察の対象とするような学習者には当てはまらない。
- 5) この点は残念ながら言語の指導者の間でも十分認識されているとはいえない。これは、日本語の一部（漢語）が表意文字であること、および、中国語を音声を見捨て「漢文」として理解する伝統があることが大きな理由であろう。
- 6) テキストデータからの語彙抽出にはKH Coderの

Mac OS X版を用いた。KH CoderのホームページのURLは以下の通り：<http://khcoder.net/>

参考文献

- Bennett, A. E. (2011) *Reading Fusion 1*. Tokyo: Nan'un-do.
- Effective Language Learning (undated) Language Difficulty Ranking (undated)
<https://www.effectivelanguagelearning.com/language-guide/language-difficulty>
- Hamada, Y. (2011a) A Study on a Learner-Friendly Shadowing Procedure. *Journal of the Japan Association for Developmental Education*, 6, 71-78.
- Hamada, Y. (2011b) Improvement of Listening Comprehension Skills Through Shadowing with Difficult Materials. *Journal of Asia TEFL*, 8, 139-162.
- Lennon, P. (1990) Investigating Fluency in EFL: A Quantitative Approach. *Language Learning*, 40, 387-417.
- Ohkado, M., D. Laurence, & C. Smith (2013) *Discoveries: Strategies for Academic Reading*. Tokyo: Kinseido.
- Rieben, L. & C. Perfetti (1991) *Learning to Read: Basic Research and Its Implications*. Hillsdale, NJ.: Lawrence Erlbaum Associates.
- Smith, D. L. (1978) Mirror Images in Japanese and English. *Language*, 54, 78-122.
- 石橋光太郎（1946）「文の表現機能」『英語の研究と教授』（10月）、22-24.
- 加藤由崇・和田珠実・大門正幸（2018）「Quizletを活用した英文読解教材の開発」『第90回LET中部支部研究大会』岐阜女子短期大学における口頭発表（2018年1月20日）.
- 寺沢拓敬（2014）『「なんで英語やるの？」の戦後史』東京：研究社.

Speaking and Listening Instructions Utilizing Quizlet

OHKADO Masayuki*

* Professor, Global Education Center, Language Program, Chubu University

Abstract

The ideal goal of studying a foreign language is arguably to establish the direct bond between thought and expressions and become able to communicate with the language without the intervention of the speaker's native language. This goal is not always easy to achieve, especially in cases where the linguistic distance between the speaker's language and the target language he or she studies is great like in the case of Japanese speakers studying English or vice versa. One of the especially problematic features in these cases is the mirror-image ordering relations of the two languages, and to clear the obstacle, various methodologies have traditionally been proposed and utilized. This paper claims that the Quizlet application, a mobile and web-based study application, can be a very useful tool to assist students to put into practice these age-old methods of studying a foreign language whose linguistic distance is great from students' native language, by reporting the use of the application in English classes for Japanese speakers.

Key words

English Education, Speaking Instructions, Listening Instructions, Quizlet